

# 悠久

第59号 March 2022

## 本号の内容

- ① 児童たちによる日中交流がスタート 岡山大学名誉教授 森 熊 男  
初代就実小学校長
- ② 岡山市立操南中と洛陽市立東昇第二中の交流授業  
～オンライン交流から交流校協定を目指して～ 岡山市立操南中学校 教諭 竹島 潤  
(令和元年度日中青少年交流促進団員)
- ③ 日 中 交 流 で の 学 び 岡山県立岡山南高等学校 教諭 木尾 直子
- ④ 令和3年10月13日 日中論語教育実践成果発表会 参加した5年生の感想
- ⑤ 「論語」が つなぐ日本と中国 岡山県日中教育交流協議会 事務局長 大川 泰 栄



書写した論語を掲げて・・・上海市思言小学校の児童



岡山大学名誉教授・初代就実小学校長

森 熊 男

## 児童たちによる日中交流がスタート

「日中友好」との言葉を聞けば、その発展に尽力した岡山県ゆかりの何人かが直ぐに思い浮かびます。近いところでは、岡崎嘉平太・内山完造、そして郭沫若がいます。ずっと溯れば、吉備真備もその一人です。航海技術も未熟な奈良時代、二度にわたって、まさに命懸けで遣唐使として先進技術や文化を求めて中国に渡ったのです。一度目は実に十八年間、唐の都・長安で経書や史書は勿論、天文学・音楽・兵学など諸学問を幅広く学び、阿倍仲麻呂と共に、彼の地にあつても知識人として名を馳せたとはいえられています。遣唐使は四隻（一隻百人ずつ）編成で航行され、たとい一隻でも目的地に着くことが出来ればそれで良しとする極めて危険なものでした。因みに、六〇〇年に始まった遣唐使から八三八年までの二十二回にわたった派遣の中で、全ての船が往復できたのは、たった一回であつたと聞けば、その時代の航海がいかに命懸けのものであつたかが知れようというものです。帰朝の際には、多くの典籍（経書・天文曆書・史書・音楽書等々）のみならず、日時計・楽器・弓・矢などを携えて、朝廷に献上したのですから（『続日本紀』）、吉備真備による中国文化・制度の日本導入への貢献度は絶大なものだったのです。蛇足になりますが、二度目の遣唐使として入唐し、その帰朝時には、鑑真和尚と同船であつたといわれています。

さて現代、先人たちの苦勞もあつた日中交流です。これからは、やはり若い世代にも頑張つて貰いたいものです。学校法人就実学園就実小学校は、グローバル化する社会状況を踏まえ、英語イマージョン教育を掲げると共に、徳育―論語教育―にも鋭意取り組んでいます。その延長線上で、「儒教が香るキャンパス」作りを目指して上海市に設立された公立思言小学校と、令和三年にW e b 交流を提携しました。そこでは、児童たちの交流（言語は英語）は勿論、両校の論語教育の実体・実践成果の報告もし、より良い教育を目指しています。一歩を踏み出したばかりですが、若い芽が大きく育つことを願っています。児童たちの日中友好を温かく見守つて下さい。

# 岡山市立操南中と 洛陽市立東昇第二中の交流授業

～オンライン交流から交流校協定を目指して～

岡山市立操南中学校  
(令和元年度日中青少年交流促進団団長)

教諭 竹島 潤

## 交流を求めて

私は、新型コロナウイルス感染拡大下の今こそ、「繋がり」や「多文化共生」の視点をもった教育活動を推進することが、教育的福祉的そして社会的に重要であると確信しています。

現在勤務している操南中学校(生徒数約八百名)では、今年度五月に「操南中学校区フィールドワーク」、六月に生徒会「操南中SDGs宣言」採択を行うなど、持続可能な地域・社会づくりの取組を推進してきました。

## 洛陽市とのオンライン交流

そうした中、学校、地域、そして次は国際社会と繋がりを感じられる取り組みをしようという機運も高まり、国際友好都市締結四十周年となる中国・洛陽市と教育交流することになりました。認定NPO岡山市日中友好協会の松井三平専務理事を通じて、交流相手校をご紹介いただいた結果、河南省・洛陽市立東昇第二中学校(生徒数約四千五百名)とオンライン交流することとなりました。以下、両校第一学年における取り組みの概要を紹介したいと思います。

①令和三年十一月二十五日(木)  
「日中青少年リーダー・オンライン交流会」

東昇第二中学校と本校の記念すべき、第一回交流会は双方の代表各十人が参加し、翌月の学年交流の準備も兼ねて行いました。参加した生徒会役員と学級委員が一人一台の情報端末を使い、通訳を介してではありますが、「学校紹介」「生徒たちの様子」「SDGs活動」について自分たちの言葉で発信しました。テーマ交流だけでなく、自由交流の時間には、「(中国の)寮生活はどうですか」「登下校はどうやって/どれぐらいかかりますか」「制服(衣服)はどうされていますか」「放課後はどうやって過ごしますか」「人気の部活は何ですか」などお互いにQ&Aで盛り上がっていました。翌月の学年交流会に向け、双方リーダー生徒たちが活躍してくれると期待できるものとなりました。また、この様



き、第一回交流会は双方の代表各十人が参加し、翌月の学年交流の準備も兼ねて行いました。参加した生徒会役員と学級委員が一人一台の情報端末を使い、通訳を介してではありますが、「学校紹介」「生徒たちの様子」「SDGs活動」について自分たちの言葉で発信しました。テーマ交流だけでなく、自由交流の時間には、「(中国の)寮生活はどうですか」「登下校はどうやって/どれぐらいかかりますか」「制服(衣服)はどうされていますか」「放課後はどうやって過ごしますか」「人気の部活は何ですか」などお互いにQ&Aで盛り上がっていました。翌月の学年交流会に向け、双方リーダー生徒たちが活躍してくれると期待できるものとなりました。また、この様

②令和三年十二月二十一日(火)  
「日中オンライン学年全体交流会」  
総合的な学習の時間として

前月の日中青少年リーダー交流会以降、両校それぞれに交流準備を進めました。本校では、実行委員会を設置し、事前学習や広報、クラス毎にテーマを決め、グループ担当を決める、寸劇を考える、衣装を用意するなど様々な発表準備を進めました。各クラスのテーマは次の通りです。

子は全体交流の事前学習として、学年全体で視聴し共有しました。



各クラスでは、さらにサブテーマに分けてを担当を決め、イラストや写真を作成したり、・実演したり、中にはクイズ形式を用いるなど様々な工夫をして発表しました。本校生徒たちが自作のもたろうダンスを披露すると、東昇第二中の生徒も手振り身振りで楽しんでくれました。クイズ形式の時には画面越しに考え

- A 「私の学校」
- B 「正月（春節）」
- C 「食べ物」
- D 「アニメ」
- E 「国際（SDGs）」
- F 「スポーツ」
- G 「私の町」
- H 「部活」



て、挙手をして答えてくれるなど、両校あわせて五百人以上が言葉と空間を越えて繋がりました。大変楽しく熱い時間となり、中国・洛陽市や国際交流への興味・関心それに国際感覚を高める機会となりました。

生徒感想（一部抜粋）

◇私は東昇第二中の皆さんの話を聞いて、生徒の人数がとて多いいところ、なわとび部や法律部など操南中にないような部活がたくさんあることに驚きました。今回のように違う国の人も交流するのは、お互いの国について知ること

ができて楽しいし、良い経験になるので良いと思いました。

◇今日の交流から、日本と中国には共通している所がたくさんあるというところにあらためて、気づけました。東昇第二中でもSDGs（国際）など国際的な視野を重視



していることが分かりました。理解を深めてお互いの国で、考えや取組を共有できたらいいなと思います。

◇・・・めちゃくちゃ緊張したけど、お互いのことを良く知れたし、実りある交流会だったので、またやってみたいです。先生、スタッフの皆さん、ありがとうございました。

最後に

このような取組によって、生徒も教職員も持続可能な社会づくりや多文化共生について、SDGs（持続可能な開発目標）十七「パートナーシップによる課題達成」の視点で学んでいくことができます。本校では、来年度以降も東昇第二中学校との教育交流を継続、発展させるべく、友好交流校協定を締結する予定です。そして、岡山市と洛陽市はも

ちろんのこと、日中両国の青少年交流を促進したいと考えています。最後に、コーディネートいただいている、認定NPO岡山市日中友好協会の松井三平専務理事、岡山県日中教育交流協議会の大川泰栄事務局長はじめ関係各位、岡山・洛陽双方の通訳の皆さん、そして両校生徒・先生方に深く感謝申し上げます。

# 日中交流での学び

岡山県立岡山南高等学校  
教諭 木尾直子

本校は、令和元年度に上海市の高等学校である陸行中学校と姉妹校提携をしました。

相互訪問を交流の第一に掲げていましたが、予定していた第一回の訪中は、新型コロナウイルスの感染拡大により、果たすことが出来ませんでした。しかし、昨年より、上海市人民対外友好協会及び、岡山県日中交流協議会協会の協力を経てオンラインによる交流が実現しています。本校生徒の中には、訪中を楽しみにしていた生徒、選択授業で中国語を学んでいる生徒、国際交流をしたいという生徒が存在し、そのような生徒の交流の場として、オンラインによるリモート交流が果たす役割は大きいと感じています。

## 『令和三年度のオンライン交流』

今年度の交流では、昨年に引き続き、全国大会出場を果たしている箏曲部の演奏、また、新たに漫画研究部の発表、国際経済科生徒による質疑、応答の時間が設けられました。また、漫画研究部は横断幕のデザインも担当しました。この横断幕は、交流当日の会場に掲示され、好評でした。上海の生徒からは、民族楽器による演奏の披露及び、上海の文化

や街、建造物の案内などをパワーポイントと流暢な英語で紹介して頂きました。

## 『垣間見た高校生の姿』

双方の準備もさることながら、発表の合間合間に見えた、等身大の高校生の姿にも注目すべき点が数多くありました。中国の生徒は積極的な生徒が多く、



質問にも恥ずかしがらず即時応答できる気質を感じました。また、アニメやゲームの話などで盛り上がる点などは、国を超えても、興味や関心は似ていると思わせるものでした。特にほほえましく感じた姿は、制服を見せ合う場面でした。双方の生徒たちともに画面に

真剣に見入っており、制服は高校生の大きな関心事の一つであると感じました。

## 『交流を通じての学び』



参加者は、この活動を通して、準備をする大切さ、どのような説明や質問をするか、翻訳、練習、立ち位置、映像確認など様々な事を学びました。また、当日には、臨機応変に対応する力や、語学を学ぶモチベーションを得ることが出来たと思います。

## 『今後の交流の目標』

国際交流の一つの目的は、中国と



いう国や人々のことを考えるときに、自分が高校の時に交流したことがある中国、一緒に話をした、オンラインで話を聞いた人がいる中国人たち、というようにより身近な所からその国や人々をとらえることが出来ることではないかと思えます。国際交流の小さくて大きな一歩は、その国の人と会話をし、友人となり、文化や違いを知ることだと思えます。国際交流担当として、このような場を提供して頂き、日中の高校生が交流出来たこと、グローバルな社会の一員であることが感じられる学びの場を提供して頂き、本当に感謝しています。

今後の高校生たちの自ら進んでの交流、そして互いの友好交流が続くことを願ってやみません。

令和三年十月十三日  
日中論語教育実践成果発表会  
参加した児童の感想

・私たちが就実小学校の5年生も、思言小の5年生も論語を元氣よく朗読しました。どちらの生徒も息がぴったり合っていました。私は「よかったです。成功した!」と思いました。

・就実小学校の3人の代表の人たちの「論語の紹介・プレゼン発表」は日本語、英語、中国語で発表したもので、すごい、と感動しました。私は、代表の友達を誇りに思いました。

・この論語発表会は、将来きつと何かの役に立つと思えます。また、交流会をしたと思いました。

・思言小の人たちは、論語を書道やダンス、歌などで発表していたことに驚きました。言葉は通じなくても、身体を使って表現し、相手に伝えることができる、ということを知りました。

・今は、外国に行くことができないので、今回、思言小の人たちと、オンラインで交流することができて、とてもうれしかったです。思言小のみなさん、ありがとうございます。

・論語は、中国と日本の共通の文化であるということを知ることができ、感動しました。

・思言小と就実小の校長先生や大学の先生が「論語」について発表してくれました。それを聞いていて、「論語ってすごいなあ。」と感心しました。論語の大切さという大きな意味に気づくことができた交流会でした。

・わたしは、論語は中国のシンボルのようなものだと感じました。社会的にも人間的にも役に立つ大切な教えだと思いました。これから

からも、毎朝3回、論語を読もうと思いました。

・中国と日本では雰囲気全然違ってました。発表している人の衣装や、歌、踊りなど、初めて見た中国文化に感動しました。見ていてとても楽しかったです。

・この発表会を通して、論語の大切さを改めて感じることができました。いろいろな話を聞いて、私はこれからも論語を学び、人格者になれるようにがんばりたいです。これからも、論語を気持ちよく読んで、楽しく学びたいです。

・中国語は初めて聞いたので、よくわかりませんでした。でも、この経験を通して、わたしは大人になるまでに中国語を勉強したいと思いました。

緊張と戦った論語発表会

発表者 ○○○○

今日、論語発表会がありました。私は代表の一人として、好きな論語を英語で紹介しました。休み時間を使って何度も何度も練習を積み重ね努力してきたので、やっとこの日が来た!と実感しました。その前日からとても緊張していました。お母さんも「がんばって!」と応援してくれていました。

私の出番になると、緊張感がよりこみあげてきました。しっかりと大きい声が出るように、より力を込めて発表しました。自分の発表が終わると、スッキリして力が抜けました。力が抜けすぎて泣きそうでした。私はこの経験を通して、「やっぱり練習は大切だな」と思いました。この経験を次に生かしていきたいです。

F君の感想 お母さんとの会話から...

・今回の交流会は、とても大切な有意義な体験になった。この交流会のことを家に帰ってお母さんに話したら、こう言われた。

母「言葉が通じないのに、どんなふうに交流できたの?」

ぼくは、なんて答えたらいいのかわからなかった。何となく交流できたのが本心だ。でも、この「何となく」が大切だと分かった。つまり、言葉ではなく、伝えたい気持ちと気持ちが伝わったのだと思う。

・言葉は通じなくても、お互いに「伝えたい気持ち」と「気持ち」が繋がったのだと感じた。

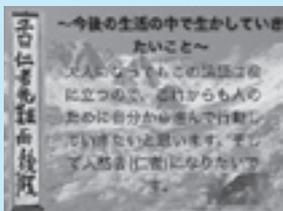
5年担任の先生より

・コロナ禍の中で、このような形で外国の小学生とオンラインで交流できたことは、子供たちにとって一生の思い出になると思えます。

・今後は、子供同士の話題や学習の様子を紹介したり質問したりするようなオンライン交流ができればよいと思えます。

・外国のことについて調べる学習活動は、本を読んだりインターネットを検索したりすることが多いです。そんな中、オンラインで上海の小学生が、論語について「書いたり、読んだり、歌ったり、踊ったりしている様子」をその場で実際に見たり聴いたりすることができたことは、とても印象的で価値のあることだと思えます。

・外国の人だけでなく、相手を理解するためには、交流を通して文化を知ることがとても大切だと思えます。このようなオンライン交流を今後も続けていきたいと思えます。



# 「論語」がつなぐ日本と中国

岡山県日中教育交流協議会

事務局長 大川 泰 栄

「論語」教育に取り組んでいる日中両国の小学校が、インターネットを通じて交流しました。交流実現までの歩みと成果を振り返ります。

## 一 校長先生の思いを受けて

令和二年十二月、就実小学校校長の山部先生から「当校児童に海外とのオンライン交流をさせたいので、中国の小学校を紹介して欲しい。」とお申し出がありました。日中教育交流協議会としては、小学校相互の交流を企画した経験はなく、就実小学校の特色ある教育の内容や学校教育



目標を確認することから始めました。

就実小学校の校名は「去華就実」（外面的華美に走らず、内面の充実に努める）に因んでおり、論語の研究者



である前校長の森熊男先生が進められた「論語を学ぶ教育」を現校長の山部先生が受け継がれ、更なる工夫と実践を研究成果としてまとめようとして

ことが分かりました。

また、論語にある「知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れず」から「かしこい子・やさしい子・たくましい子」を学校教育目標に掲げ、さらに英語以外にも算数、体育、図工の授業を英語で行うイマージョン教育を進めておられ、小学校卒業時には「英検準二級」程度の英語力習得を目指されているとのことでした。

## 二 リモート交流を支援する

就実小学校のこれらの特色を中国

側に伝え、リモート交流の相手校の選定を依頼したところ、上海市奉賢区（区名は、孔子の弟子の子遊（言偃）がこの地で教えを伝えたとの伝承があるに因る）にあり、「論語」の教えや伝統的な中国文化を継承することを使命としている「思言小学」を紹介されました。

交流開始の当初は、双方の校長挨拶や学校紹介をおこなうこととし、就実小学校からは、「英語イマージョン教育実践校として英語による交流を進め、論語学習を通して両国文化への関心を高め、相互理解を深める」ことを目標としたとの提案がありました。



こうした方針の下、令和三年四月十三日の初めてのオンライン交流では、校長による挨拶や学校紹介を行い、同二十七日には両校児童による学

校紹介や論語の朗読（同じ文を日本語、中国語それぞれに朗読した）の他、就実小学校から英語による自作の学校紹介動画、思言小学校児童から学校紹介及び歌曲・箏・劇を披露しました。

両校児童は、笑顔で交流を楽しみ、なかでも就実小学校児童は、通訳の話す中国語にも興味津々で、交流の進展への期待が膨らんだようで、様々な感想を寄せてくれました。

児童の感想や山部校長がまとめた研究紀要「論語をもとにした教育実践」を当協議会で翻訳して中国側に提供しました。

### 三 論語教育の成果を発表する

こうした両校の交流成果を踏まえ、論語をテーマとする教育実践の発表会を開催することになり、山部校長と協議を重ね、(一) 両校校長による教育実践の発表 (二) 児童による論語学習の成果発表 (三) 論語研究者による評価を三本柱とすることに決定しました。

このことを中国側に伝えて、両校で発表内容を検討の上、日本側の研



研究者は森熊 勇前校長 (岡山大学 名誉教授) にお願ひし、児童三人がそれぞれ英語・中国語・日本語で論語の感想を発表するようになりました。

令和三年十月十三日開催の発表会は、就実学園西井理事長のご臨席の下、日本側からは岡山市日中友好協会正副会長、当協議会会長、中国側から上海市対外友好協会担当、研究者として復旦大学徐静波教授にご出席いただきました。

発表会後に寄せられた児童の感想には、大きな感動と将来へつながる経験ができたことが伺われました。

四ページに児童の感想等を掲載。

### 四 今回の交流を振り返って



リモート交流では、インターネットを通じて両者の物理的な距離を感じることなく交流できるというメリットが強調されますが、今回は「論

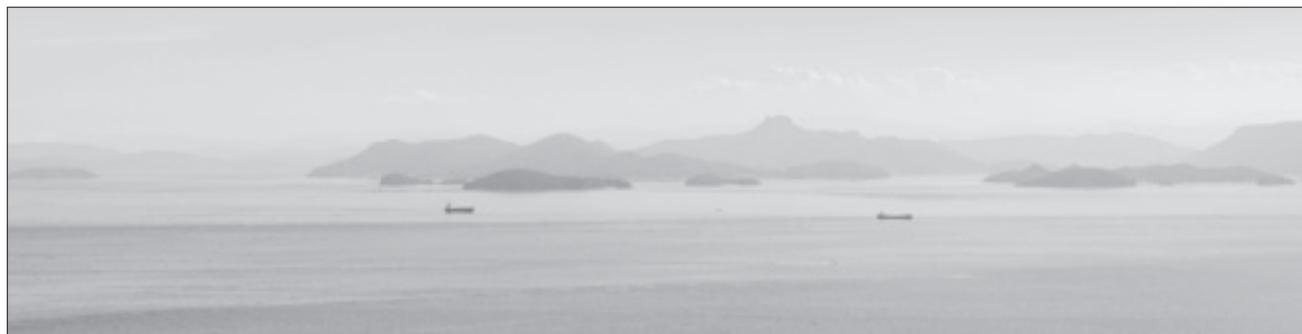
語」という共通のテーマを設定したことで、交流することの意義そのものに着目でき、その大切さに気付くことができましたと感じています。

日本と中国との長い交流の歴史の中には、多くの共通の「宝物」があり、今後も「論語」のような素晴らしい



いテーマを見出すことが出来ればと思います。両国の相互理解と交流促進のため、当協議会として更なる支援に取り組んでいきたいと考えており、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。





bene(よく)+ esse(生きる)  
Benesse=「よく生きる」



株式会社ベネッセホールディングス  
〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17  
<https://www.benesse-hd.co.jp/>

学校法人 加計学園

## 岡山理科大学

2022年4月、2学部1コース新設！

理学部（応用数学科、基礎理学科、物理学科、化学科、動物学科、臨床生命科学科）

工学部（機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、応用化学科、建築学科、生命医療工学科）

**NEW** 情報理工学部（情報理工学科）＝情報技術と機械制御技術分野を融合！

**NEW** 生命科学部（生物科学科）＝生物の力で暮らしを豊かにする！

生物地球学部（生物地球学科）

教育学部（初等教育学科、中等教育学科）

経営学部（経営学科）

獣医学部（獣医学科、獣医保健看護学科）

**NEW** アクティブラーナーズコース＝岡山キャンパスの全ての授業が履修できる！

岡山キャンパス

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

今治キャンパス

〒794-8555 愛媛県今治市いこいの丘1-3



### 岡山県日中教育交流協議会とは、

- 1 学校、団体、個人を会員とする民間団体です。
- 2 会費は、年会費（4月～翌年3月）です。  
団体（教育委員会・学校園）・・・3,000円、個人・・・2,000円
- 3 主な活動内容は、
  - (1) 中国との教育交流（リモート交流での技術面のサポートも含みます。）
  - (2) 交流校の紹介、講師の派遣、各種資料の提供、教育事情調査団派遣等
  - (3) 会報「悠久」の発行（県内小中学校、高等学校、教育委員会へ無料配布）
  - (4) 日中青少年交流事業－STUDENT EXCHANGE 事業－
  - (5) 交流活動発表会開催や教育交流実態調査等

岡山県教育交流協議会は、会費と助成金、補助金で活動しています。  
この機会に、是非ご入会ください。

#### 岡山県日中教育交流協議会 会報「悠久」第59号

発行：令和4年3月／発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086) 225-5083/FAX (086) 225-5041